

ウインドウはすべてエレクトロリツク。

エイゾウ

はじめに

ロクサツめのジチヨをだすことになった。イツサツめとくらべると、ブツリガクテキナセツがふえたとおもう。どうも、わたしのキヨウミがそちらのホウにむいているからだ。これらはまとめ、ふゆあたりにイツサツにしようとおもっている。ブツリガクテキナはなしだけをよみたいというのであれば、てにとつていただきたい。

ことは、レイカであろう。あまりあつくない。しかし、わたしがこどものころをおもいだしてみると、そんなにあついひがあつたというキオクがない。こんなかんじだったかもしれない。

いよいよコウレイカがシンテンし、ニホンケイザイがためされるキョクメンにさしかかっている。ここでニジュウネンばかりこらえられたら、そのあとまあまくいくかもしれない。キヨウ、にじがみえた。シゼンはニンゲンのツゴウとはベツにうごく。むずかしいシヤカイジヨウキヨウであるが、いいしごとができればとおもう。

ニセンジュウキウネン シチガツ ニジュウシチニチ

イチ

ケイエイカツドウでは、くろじがよしとされる。しかし、だれもがくろじというのはありません。くろじがでるなら、どこかであかじがでているはずである。

ヒヤクエンのジュースでかんがえよう。そのうちサンジュウエンがリエキブンとしよう。これをななジュウエンでうれば、うるホウも、かうホウもあかじはでない(くろじもでない)。しかし、ヒヤクエンでうりかいすると、うるホウはサンジュウエンのくろじ、かうホウはサンジュウエンのあかじがでる。

フツウはこれをあかじといたりしない。しかし、そういうことである。かうホウは、そうやって、あかじ(くろじのもと)をキョウキュウする。ケイキがわるいときは、うるホウがあかじをキョウキュウしたりする。ただかうだけだったら、フケイキのホウがあかじはすくなくなるだろう。しかし、どこかではたらいいたりするから、あかじじゃこまるとなる。カイシヤがつぶれてしまつてはこまるし、キュウリヨウがさがつてもこまるからだ。そうやって、くろじはゼニンされる。

また、ロウドウもあかじである。イツセンマンエンブンしごとをして、ゴヒヤクマンエン

をうけとったりする。そういうわけだから、あかじはつきものともいえる。あかじがないシヤカイをめざしたくにはあるが、それがセイコウしたとはきかない。

二

チホウからひとがダイトシのホウにイドウするという。そのために、ダイトシは、ますますおおきくなり、チホウはさびれる。なぜそういうことがおこるか。

ケイザイテキにいえば、ダイトシにはかねがあつまるからだろう。トクにシュトとなれば、ゼイキンがあつまるから、それにむらがるといえるだろう。チョコセツもらうのではなく、しごとをしてそれをもらうと。

しかし、ベツのみかたもある。これは、どちらかというとシヤカイガクテキなみかただ。ひとには、ニシュルイのひとがいるかもしれない。ひとつは、チュウオウのホウをむくひとだ。なにかという、チュウオウのホウをみる。チュウオウでは、なにがリュウコウしているのかなどをきにする。チュウオウという、やはりダイトシだろう。

もうひとつは、ヘンキョウのホウをむくひとだ。いなかでは、なにがはやっているかなど

をきにする。チュウオウのホウがいまはひとがあつまっているから、さびしくもなくなるかもしれない。しかし、いなかでノウギョウをしていなければ、たべていけない。だから、ノウサンブツをてにいれるために、トシでは、ニンゲンカンケイがジュウシされているといえる。そうやって、チュウオウのホウをむくひとがおおいから、ノウギョウがさかんになるといふのはむずかしいかもしれない。

サン

クラシックオンガクのコウキョウキョクなんかはすごい。タクサンのパートにわかれて、タクサンのおとをひいている。それでトクにうまいひとは、「ソリスト」とよばれる。ヴァイオリンもあれば、チェロもある、トランペットもある。いってみれば、タクサンのソロがまじりあって、キョクをコウセイしている。

そのテン、ニホンのオンガクは、わりとタンジュンだったりする。ガッシュヨウなどもやるひとはやっているが、よんパートにわかれてのうたをうたいたしたのは、サイキンのことである。ニホンジンもそういう「ソロ」のあつまりになれてきたかもしれない。それがすす

むと、いまはあまりしないのではとおもうが、「おチャにしますか、コーヒーにしますか。」などと、センタクをさせるバメンがふえるかもしれない。つまり、そのひとが「なんの」ソリストかをシュチョウしなければならぬというバメンができるということだ。

ニホンはタンイツブンカなどというが、やはりそういうヘンカがでてきてもおかしくない。セイショウもいいが、やはり、「ソリスト」のカツヤクもダイジとおもうわけである。わたしにいわせれば、ニホンのゲンダイのうたは、みつつのソロでできている。ひとつはうた。ひとはカウンターメロディ、ひとつはコードだ（もうひとついえば、ベースフレーズ）。

クラシックだともっとフクザツだが、いまのうたは、そんなかんじである。だから、うりあげはどうあれ、ギジュツテキには、クラシックにおよばないとおもう。そうやって、モンクをいうならジブンでもっとフクザツなものをつくれればいい。しかし、ギジュツがヒツヨウなのである。そうカンタンではない。まだまだクラシックからまなぶことはあるう。

よん

なぜ、ニホンジンのめはダイタイくろいのか。それは、そのいろがよくあるシゲンなんだ

ろう。モクザイをもやすと、くろくなる。カントンにいうと、そのいろをつかえばいい。ガイジンなら、うみのいろとか、シヨクブツのいろをつかえばいいだろう。

しかし、なぜウチユウがくろいのか。ひよつとしたら、もえかすがタクサンただよっているのかもしれない。わたしのカイソウセツ（●『スーペリアーをみつけた。』「イカ、『ス』」ゴジュウキユウ、ヒヤクニジュウロク、ヒヤクサンジュウロク）では、ウチユウがおおわれているから、くろいであろう。まえに、ブヒンがよければ、カンセイヒンがよくなる（●『オンガクイチエンのジダイ』「イカ、『オ』」ヒヤクサンジュウイチ、『ス』ヒヤクサンジュウ）。とかいた。

しかしである、モーツアルトのオンガクをまねてみた。おとそのものも、（ガツキをひいたわけでない。ガツキをひいたおとをつかった。）わるくない。それなら、「わるくない」オンガクができるはずである。

だが、ケツカはなれていないおとのシユウゴウになった。そのキヨクは、いわゆるソロのあつまりのようなキヨクである。それで、ブヒンもタイセツだが、シキ（くみたてギジュツ）もダイジだとおもった。いいハーモニーにしなければならぬと。だから、ソロがおおいようなオンガクのばあいは、シキシヤがセンゾクでヒツヨウなのである。ひとつのギジュツである。

ニンゲンシヤカイもそうなのだろう。シヤカイブヒンをまとめるリーダーがヒツヨウなのかもしれない。トクにソロがつよいところではそうだろう。そういうメンでは、まだニホンはソロがつよくないといえるかもしれない。あまり、リーダーのはなしにならないからだ。セイゾウギョウでは、ブヒンをつくるのは、ニホンジンはつよいだろう。しかし、くみたてギジュツは、あまりやらなくなったブン、チュウゴクがつよくなっただろう。ハンエイするのは、ブヒンがつよいくにと、くみたてギジュツがつよいくにかもしれない

ゴ

「でるくいはうたれる。」という。しかし、すぎたくいをうつのはむずかしい(●『よろこぶゲンシジン』『イカ、『よ』ななジュウゴ)。まえのホンでギロンしたいじめのモンダイ(●『ス』ヒヤクログジュウゴ、ヒヤクログジュウサン)も、くいをたたけはいいわけではないというケツロソである。なぜなら、フコウヘイがシヨウずるからだ。

つまり、ひとりのできをかえるのでは、そのひとのフタンがおおきい。だから、コウヘイなりヨウだけ、ゼンインのできをかえればいい。それはどうということかというのと、でたくい

はちよつとたたき、でてないいはちよつとひつぱるといふことである。そうすると、それぞれのドリヨクがキントウで、あらたなフコウヘイカンがうまれないといふことである。

ロク

このごろ、わたしは、うたのカシユのカンジョウヒョウゲンがきになる。たまにヒョウゲンがゆたかなカシユがいる。まえは、メロディにかしがのつていれば、リップなうただとおもつていたかもしれない。まえに、ドのおとだけでなく、レのおとも、ミのおともくわえてはなせば、カンジョウがヒョウゲンできるとかいた（●『よ』サン）。

たしかにそういうメンもあるが、それだけではない。こえのおおきさもそうだろうし、こえのシツカンもある。サイキンは、コンピューターにカシヨウさせたり、ブンをよみあげさせたりするが、まだまだそういうイミでジツヨウテキではないとおもえる。もつともそのギジユツがジツヨウカノウになつてしまうと、コンピューターにだまされるといふことになつてしまう。ゲンジョウのままでもいいのかもしれない。

なな

ちよつとまえまでは、「コクサイキョウリヨク」とか「キョウチヨウ」とかいっていたが、サイキンでは、ナシヨナリズムがはやっているかのようだ。それについてギロンもあるだろう。

しかし、セカイジユウのみなものしあわせがダイジというイケンも、わたしたちのくのにのしあわせがダイジというイケンも、サイキンはあまりきかれなくなったことばだが、「イデオロギー」である。

つまり、ゲンジヨウではそうではないが、モクヒヨウとしてコウドウしたいというおもいである。それが、「ジコクユウセン」にかわってきているとすれば、(そのまえにいつていた)コクサイキョウチヨウは、あるテイドタツセイされたということかもしれない。そのうえで、ジコクをダイジにするだったら、そんなにわるいはなしでもないような気がする。それでまたジコクがうるおえば、また、コクサイキョウチヨウにむくかもしれないからだ。

シヤカイもダイジだが、コジンもダイジである。ニホンでは、「シヤカイジン」といい、シヤカイニンゲンがソソチヨウされるようだが、そういうタサイボウのいきものようではな

く、タンサイボウのいきものもいる。つまり、コジンニンゲンでもいいはずだ。むかしだったら、「いえ」ごじょうにかんがえていたんだらう。「シヤカイジン」というかんがえは、そうふるくはないのだらう。それはともかく、サイキンは、モクヒヨウがかわつてきていると、そういうことだらう。タブン、どちらもタイセツだ。

ハチ

デンシキキのあるヨウシキのことを、「ドダイ」というようなことばであらわしたりする。「それはもつともフキュウしている『ドダイ』だ。」というようである。しかし、これはレトリックというか、セイヒンのイメージをよくさせるために、えらんだことばではないかともおもふ。

それは、だれでもがその「ドダイ」にのれるわけではないからだ。トクに「ニユウジヨウセイゲン」はもうけていないようだが、おかねがなければ、その「ドダイ」にはのれない。さらに、「タイジョウセイゲン」ももうけていないだらうが、イジするのにそこそこのシキンリヨクがある。それなら、「つりわ」とよんだホウがいいのではないか。タイリヨク（シキン

リヨク)のないひとは、かつてにそこからおちるイメージである。しかし、「つりわ」はイダイである。それだけあいされているわけだから。

キユウ

だれかがリエキをだすと、ものがやすくなるはなしをした(●『オ』ヒャクサンジュウゴ、『ス』サンジュウハチ)。だから、ブツカをアンテイさせたかったら、リエキをあげるのをやめればよい。しかし、それをするというはなしはきかない。

ブランドもののよさは、ものがたりとかにあるのではないかもしれない。たかいカカクがいいのではないか。たかいカカクでかわれば、ケツコウなりエキがでる。そうすると、そのリエキのブン、だれかがうっているもののねだんをさげるのである。ブツカがやすくなるから、あえてブランドものをかうのかもしれない。

ジュウ

よくケイキがいいだの、わるいだのいう。コウケイキかフケイキかである。ショウバイを
していれば、コウケイキのホウがいいだろう。それとおなじように、「シヤカイ」にもいい、
わるいがないか。

ものがスムーズにとりひきできるのは、いいシヤカイ（コウシヤカイ）だろう。イツポウ、
ショウヒンセツメイが、いいカゲンだったり、フリョウヒンをうりつけたりするのは、アク
シヤカイだ。ケイキ、ケイザイのジュンカンもダイジだが、シヤカイのジョウタイもダイジ
だとおもうのである。

ジュウイチ

ニホンのガツコウでまなぶシヨドウは、ハンシのおおきさにかきあげる。しかし、そこ
かいたなんモジかは、ジツヨウテキナブンといえるだろうか。タブン、ジツヨウセイはすく
ないだろう。つかえるとしたら、スローガンにだろう。そういうのは、ネンにイツカイかけ
ばいいぐらいだろう。それなのに、マイシユウイツカイはかく。

たしかに、おおきなジでかけば、こまかいはいらひや、はねにこだわるだろう。だが、ちい

さいモジで、ブンシヨウをかけたホウがいいのではないか。どうもそんなきがする。いって
みれば、いまのニホンのシヨドウキヨウイクはゲイジュツテキなのだ。

ジユウニ

ひかりはネツをもっていたりもする。ちよつとまえにはやったシンガタデンキュウは、あ
えて、ネツをへらして、あかるさをふやしたかたなのだろう。タイヨウケイのワクセイは、
そとがわをまわっているものほど、オンドがひくいとされる。ジツカンとしてもそうだ。

たいたひのちかくにいればあついが、はなれるとあつくなくなる。だから、タンジュンに
いうと、ダブリユエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり） わる デイ（キヨリ）と
なる（ただし、ヒヨウジュンテキなひかりのばあいだ）。

しかし、あるキヨリをすすむことにより、あたたかさがうしなわれるかはうたがわしい。
ひかりがあたたかさをうしなわないでとどくとするなら、ダブリユエーイコールエルアイ
だということになる。とおくのワクセイだと、ひかりのとどくヒンドがひくいというみかた
だ。ジツカンとしてはゼンシャだろうか。しかし、ネツのコウカン（すすむさきのブツシツ

と)とかんがえれば、コウシャといえるだろうか。また、ひかりのシユルイのモンダイもある。

ジユウサン

わたしのおやじとおふくろは、センソウをタイケンしたセダイだからか、かなりシツソだ。あたらしいものなんか、メツタにかつてこない。わたしは、いまのところ、それをまねできていない。

おやじなんかは、ものをシユウしたところで、なにかがおこれば、なくなってしまうぐらいにかんがえていたのかもしれない。ただ、いまのところ、「トチ」はなくならない。だから、フドウサンがねあがりしたりしたのだろうが、またねさがりした(ジンコウゲンシヨウのため)。おやじとおふくろがあじわったムジヨウカンは、ジツサイにタイケンしてみないとわからないかもしれない。

ジユウよん

フケイキのときには、シツギョウがふえるという。そこでシヨクをうしなつたひとはどうすればまたかせげるだろう。

ニンゲンのこのむものをみれば、それはタッセイできるかもしれない。パソコンがはやつたジダイなら、パソコンみたいなニンゲンになればいいし、ケイタイデンワがはやつたのなら、ケイタイデンワみたいなニンゲンになればいい。それはよくうれるのだから、まちがいないだろう。

ジユウゴ

ものエーと、ものビーをみたときに、ニンゲンは、それを「おなじ」か「ちがう」とハンダンするだろう。ニホンでは、コクミンドウシが「おなじ」だと、キンシツテキだといわれることがある。しかし、よくみると、ちがいはあるだろう。そういうなかでは、「ちがう」とイシキしたら、「ちがう」となる。

イツポウでガツシユウコクには、「ちがう」ひとたちがあつまっていたりする。そういうなかでは、「ちがう」とニンシキしなくても、「ちがう」だろう。へたすると、「ちがう」ドウシ

でケンカになるから、「おなじ」とおもわせるしかけがヒツヨウとなるだろう。

そうやって、カンネンテキに「おなじ」にしていくな。しかし、いまのはやはり、「ちがう」であるかもしれない。しかし、それをすすめると、ドンドン「ちがう」になってしまうので、「おなじ」といえるしくみをキョウカしたりするだろう。そうやって、くにやシャカイはやっていくんだとおもう。いまのところ、サイジヨウの「おなじ」はグローバリズムだろう。しかし、「ちがう」のではと。

ジユウロク

「でるくいほうたれる。」という（●ホンチョ「イカ、ムヒョウキ」ゴ）。しかし、それではサギョウリヨウがふえる。だから、でるくいをほおっておくと、もつともコウリツテキとえるかもしれない。たとえば、しごとなどでだ。エイギョウのエフさんはうりあげが、ほかのひとのニバイある。それをうってしまつたら、コウリツがおちるだろう。それではしようがない。

ジユウシチ

「チームワーク」がいいなどという。ひとがそれぞれしごとしているよりも、ダンケツしてしごとをしたホウがいいようにおもえるかもしれない。それはただしいかもしれないが、モンダイもある。

それは、まとまることがモクヒヨウになったり、まとまることにおおくのロウリヨクをさくばあいである。たとえば、それぞれのひとが、ニタンイジカンをついやして、イチずつのしごとをしたとする。それをチームワークよくやるばあいに、ひとびとがまとまるのに、ニタンイジカンをついやしたら、それぞれのばあいにニタンイおとるし、まとまるのに、イチタンイジカンをつやしても、イチタンイ、それぞれのばあいにおとる。だから、それぞれがしごとをしたホウがコウリツはよいとなる。

ジユウハチ

わるいことをすると、バツをうけるといふのがある。そのホウがひとはわるいことをしな

いといわれる。しかし、わるいことをつづしているだけで、ケンセツテキといえるだろうか。ハンタイにいいことをしたこと、シヨウをあたえるというのものもある。そのどちらもあるのがフツウだろうが、ニチジヨウテキに、トクにコジンとしてはたらいっているばあいには、シヨウをもらうというのはあまりないとおもわれる。だから、うまくシヨウをうけられるようにすれば、もつとしごとがハツテンするかもしれない。

ジユウキユウ

ミンエイカは、ハチジユウネンダイから、カツパツになった。ソレンのシツパイとドウヨウ、ケイエイのしかたのモンダイともいえる。しかし、そのほかにも、モンダイがある。それは、まえにシテキした、コウリツのモンダイである（●ジユウシチ、『オ』ゴジユウロク）。つまり、まとまりをジユウシするゆえに、ココのはたらきがよわくなってしまふということだ。それなら、ココのちからをいかせばよい。それだけであろう。

ニジユウ

もう、バブルゴのセダイがそだっている。そのセダイは、そのまえのセダイとはかんがえがちがうであろう。だから、「センゴ」のジダイのつぎのジダイがはじまってよさそうである。しかし、センゴのセイサンがおわらないために、なかなかさういうこえはきかれない。センゴのセイサンがすすまないためかもしれないし、そもそもセンソウがおわっていないからかもしれない。シヨクミンチへのサクシユへのトウソウなどである。

まだまだヘイワとはいえないそうなのである。

ニジュウイチ

ダブリユエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わるデイ（キヨリ）とかいた（ただし、コウセイがハツするようなどである。●ジユウニ）。これがただしければ、ウチュウのそとがわは、つめたいはずである（●『ス』ゴジュウキユウ）。

それで、わたしは、ウチュウのそとがわは、コタイだとかんがえる。つまり、なかからみたチキユウのようである。それとドウヨウに、チキユウのうちがわにも、ウチュウのようなものがあるとかんがえる（●『ス』ヒャクニジュウロク）。イチブンでいえば、ウチュウ

とは、カイソウコウゾウになっている。ということである。

ニジユウニ

ケイザイののびは、みぎかかたあがりが良いとされる。しかし、にもかかわらず、キユウなハツテンをカンゲイしたりする。そのリユウのひとつは、かぶぬしのリエキのためであるうが、まあ、それをキタイしたりする。

そうではなくて、ケンジツなのび（ネンリツイッパーセントのうりあげゾウなど）をめざすのがよいのではないか。「ながいきケイエイ」といつておく。

ニジユウサン

ダイエイテイコクは、かつてのセカイイチのようにおもわれているかもしれない。そのゴに、ガツシユウコクがさかえたからだ。「アメリカジンによるヘイワ」なんてことばもある。しかし、ジヨウキキカンなどをカイハツしたギジュツリヨクは、ゲンザイでもいきている

だろう。また、レンポウのくにもおおい。そういうくだが、「チキュウカ」などといい、がんばっている。

このさきは、ガシュウコクとチュウゴクだといういいかたをするが、ベツのセンもあるのだ。トクに、チュウゴクがたくわえたセイゾウギジュツ（もはや、ニホンジンがつくれなくなったセイヒンもおおいだろう。）と、ダイエイテイコクのギジュツがくみあわされれば、もつともつよいケイエイタイといえるだろう。

ニジュウよん

フリヨウシヨウネンがひざをまげて、おしりはつけずにすわるといふビヨウシヤがある。わシキベンジヨは、そういうつかいかたをする。このすわりかたには、ほとんどのニホンジンがこころえているだろう。

ところが、キュウジュウネンダイに、おしりをヂメンにつけてすわりこむわかものがふえたという。それはタイドとしてのリラックスである。ヨウシキベンジヨがふえたためかもしれない。それにタイオウして、サイキンは、わシキベンジヨがへっている。

ニホンジンのドウサにリラックスがふえたようだが、どこにすわるでもなく、いすにすわるでもなく、そういう「わシキずわり」のシセイは、ファイティングポーズのようにダイジだとおもう。

ニジュウゴ

モジをかくのに、おおいシュルイですくなくかくか、すくないシュルイでタクサンかくかというセンタクがある。ゼンシヤはカンジをかくようにであり、コウシヤはエイゴをかくようにである。

どっちのハウシキでもよいが、ゼンシヤのばあいだと、ひとつひとつのモジをおぼえることがカンタンでなない。

そういうモンダイがあつてか、サイキンは、コウシヤをシジするひとがおおいようにおもう。ニホンゴは、そのチュウカンである。ヘイキンからみると、カンジはくろうとむけだろ

ニジユウロク

モジがハツメイされ、キロクがカノウになる。そのゴ、そのモジがくずされ、キロクしやすくなつていく（シヨウケイモジから、ゲンダイのモジのように。）そうすると、キロクのリヨウがふえる。それをブンカというのだろう。

キンネンでは、デンシテキにキロクされる。まだまだブンカのジダイはつづくかもしれない。

ニジユウシチ

ハチジュウ、キュウジュウネンダイは、ニホンはセカイでニバンのケイザイタイコクといつていた。コクナイソウセイサンガクが、セカイダイニイだったからだ。いまは、セカイサシイといっている。

しかし、ホントウにそうなのか。ホントウのところは、イーユーとエイレンポウにつづくセカイダイゴイである。それをわすれてはならない。

ニジユウハチ

ミライをヨキしたシナリオエーとビーがあるとするとする（シーもあるかもしれない）。それをだれがきめるのか。シジョウがきめるのなら、それはミンシユシユギだろう。かみがきめるというのもあるだろうし、セイジカがきめるというのもあるだろう。それで、セイジというかのシユルイがクベツできる。わたしは、いまのところ、それぞれがきめているとおもっている。

ニジユウキユウ

もし、ミライのシナリオをシジョウがきめるのなら、そのシジョウをソウサしてしまえというかんがえもできるがかんがえられる。それができるとなると、もはやシジョウがきめているとはいえないであろう。そういうのをソウサされたシジョウということにする。

だれがソウサされたシジョウをつくるのか。ひとつは、セイジカだろう。そうすると、そのカイニユウがおおいほど、シジョウを（ミンイを）ソウサするわけだから、チョウキセイ

ケンができやすいだろう（だから、「ちいさなセイフ」がはやらない）。ドクサイになるかもしれない。

このようにコウセイなセイドのようでも、きびしいウンヨウになるカノウセイがあることをショウチしていなければならない。コジンがシナリオのセンタクケンをもてるシャカイがよいシャカイかもしれない。

サンジユウ

いまごろでは、あまりヒヨウカされるニホンセイヒンはすくない（ニホンキギヨウはカイガイでもつくったりもしている）。ユイツのレイガイは、くるまであろう。

なぜヒヨウカされないか。わたしは、それは、ニホンキギヨウが「ブツリヨウ」にはしつたからだとおもう。ブツリヨウとはどういうことか。タクサンうるということではない。セイヒンのシツがブツリヨウなのだ。

ハチジユウネンダイからのエンだかになるまえは、すくないエネルギーでうごくようにセイヒンがつくられていた。しかし、エンだかにふれてからは、いろいろとユニユウできるよ

うになったからか、ブツリヨウにはしりだした。カセットテープレコーダーは、デンチがジユウジカンもつが、シーディプレイヤは、ゴジカンしかもたない。コウシャのホウが、おとはよいといわれるが、そういうケツテンがある。シゲンのすくなくくにすむイジヨウ、それではいけないのではとおもう。

サンジユウイチ

サギヨウのコウリツカなどという。それをするためになにをするか。サギヨウにかけるジカンをきめるのか。それもできるだろうが、タンジュンにいうと、サギヨウにシヤクドをつくればよい。コンピュータをドウニユウしているのならカンタンだろう。

サンジユウニ

あるセイヒンがあるとす。それがベンリなら、シジョウにのこる（つかわれつづける）だろう。こどもをうむうまないのかんがえかたはあるが、やはり、ベンリなら、シジョウに

のこるだろう。そうかんがえると、センシンコクのニンゲンは、やくにたっていないことになる。どうなのだろう。

サンジユウサン

ケイキがいいだのわるいだのいう。おかねがよくまわっているかどうかをあらわすことばなのだろう。ケイキがわるいと、ケイキタイサクといって、コウキョウコウジをはじめ。そうすると、セイフのあかじがふえる。それでいいのだろうか。

センゼンからそうだが、ニホンはユニユウがあつて、なりたっている。だから、ボウエキシユウニユウがダイジなはずである。どうも、それをわすれてしまっているかのようだ。

サンジユウよん

ダブリユエー(あたたかさ) イコール エルアイ(ひかり) わる デイ(キヨリ) とかいた(●ニジユウイチ、ジユウニ)。

しかし、ひかりがすすんでいくことにおとろえがないとすれば、ダブリュエーイコール
エルアイとなる。だとすると、ひかりのどこかないところは、ダブリュエーイコール
となる。そういうわけで、そういうところにはコタイがあるだろう。

サンジユウゴ

キユウジユウネンダイに、「トレンデイ」なブンカがはやった。テレビバングミによるエイ
キョウあつただろうし、ザツシによるエイキョウもあつたろう。

なぜか、クリスマスには、デートをしてといったぐあいに、コウドウレイがしめされる。
そうしたブンカのエイキョウがあつたからか、ふと、そういうブンカをおもいだしたりする。
そういうことをしなければという、なかばギムカンのようなカンカクにおちいることがある。
ベツにジブンはジブン、タニンはタニンなのだから、それにかならずもしたがうヒツヨウ
はないが、それをしないと、「まけ」をセンコクされるような気がする。

なにかそういう「トレンデイ」とはちがうブンカをみつけなければならぬかもしれない。

サンジユウロク

わたしがコウコウセイのところ、かよったシイディやは、ルイケイでイチマンニセンゴヒヤクエンブンかうと、ニセンゴヒヤクエンブンのシイディがもらえた。リツにすると、ニワリである。そういうサービスがあったのでよくいった。

いまはそういうみせはみられなくなった。ベツのいいかたをすれば、それは、まずしくなった。ひよつとしたら、ニンゲンもそうかもしれぬ。「コセイ」とはいうけれども、コウリツがユウセンされ、コセイはへっていく。

サンジユウなな

キユウジユウネンダイコウハンから、ニホンでは、パソコンブームになった。それからパソコンがフキユウした。トウジ、ニホンのメーカーはニホンでつくっていた。いまは、チュウゴクセイがおおい。

それはともかくとして、パソコンをつくることで、だれがもうかるのか、タブン、ニホン

ジンももうかるが、チュウゴクジンがイチバンもうかるだろう。なぜか。オウベイがアルファベットのブンカなのにタイして、チュウゴクは、カンジのブンカだからである。グタイテキには、モジニュウリヨクでラクになる。カンジがもつともカクスウがおおい。それを、ジンではかけなくてもつかえるのだ。そのメリットはおおきいだろう。

サンジユウハチ

ウチュウのそとがわに、コタイのかたまりがあるかもしれないというはなしをした（●サンジユウよん、『ス』ヨンジユウハチ、ゴジユウキユウ）。

ひかりすらもこおりつくほどのテイオンではないか。そこにたまつたひかりのコタイが、あたらしくトウタツするひかりによってねっせられ、エキタイ、キタイとなるのではないか。そのケツカ、ウチュウのうちがわにむかつて、コウセイのネンリヨウとなれば、ウチュウは、またジュンカンする。

サンジユウキユウ

ウチュウのそとがわから「ガスカしたひかり」が、ウチュウのうちがわにながれているかもしれない。とかいた（●サンジュウハチ、『ス』ヒヤクジュウゴ、ヒヤクキュウ、ヒヤクハチ）。なぜ、そういうことがおこるか。わたしは、ブツシツのうごきは、キホンテキに「コウカン」だともうからである。いつてみれば、エル（うごき）イコールイーエックス（コウカン）である。

さきのレイでいうと、ひかりとガスカしたひかり（ダークライトということにする。）が、コウカンされる。それによつて、ウチュウがなごちするのではないか。

よんジュウ

エル（うごき）イコールイーエックス（コウカン）とかいた（●サンジュウキュウ）。そうであれば、まえにかいた（●『ス』ヒヤクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）ように、エルイコールテイ（ジカン）である。これから、テイイコールイーエックスとなる。

つまり、テイをセイリツさせるためには、テイイコールイー（エネルギー）わるダブリユ（おもさ）ゆえに、エネルギー、オモサがヒツヨウで、テイとコウカンはトウカとなる。

ニンゲンのことばのおもさは、あまりはかられないが、カガクブツシツとすると、なんグラムかだろう。そこにエネルギーがあり、コウカンカノウだとすると、ジカンのカンネンができるだろう。ニンゲンは、エネルギーをもっているし、ことばをコウカン（たべることもだ。）するから、ジカンをニンシキすることがカノウだったのだろう。

ジカンがないと、シンポすることがないから、コウカンしないようなセイブツはほろびただろう。

よんジュウイチ

ジカンとコウカンについてかいた（●よんジュウ）が、これは、セイブツであるためのジョウケンかもしれない。つまり、イチ、エネルギーがあつて、ニ、おもさがあつて、サン、コウカンがカノウであること。ジリツテキなコウカンができるところが、ほかのものとはちがうだろう。

ニのおもさがあつては、みたせるものがおおいだろう。しかし、イチのエネルギーは、ほかからちからがかかるばあいもあるが、なかなかみたせるものはすくない。サンのコウカン

カノウとなる、もうめずらしい。

エーアイののっているパソコンも、それにちがいがジョウホウをコウカンするだけだ。だから、セイブツをテイギするには、「エネルギーセイのもの」をコウカンするといったホウがいかもしれない。

このジョウケンをセイリしていくと、「あなたは、テイ(ジカン)イコール キュウジユウイチ(ジユミヨウがキュウジユウイツサイ)ですよといえるかもしれない。

よんジュウニ

デスクワークばかりしているジブンに、ジブンとエーアイとのサをといかけたとき、どうちがうのか、イツシユンではセツメイできなかつた。まえからいつているように(●『オ』)ジユウ、サンジユウ、サンジユウイチ、サンジユウよん、サンジユウゴ、サンジユウロク、ななジュウハチ、ヒヤクよんジュウイチ、ヒヤクロクジユウサン)、ジムサギヨウはエーアイにうばわれてしまうだろうから、あせりもひとしおだった。

それなら、うごきまわればいいのかであるが、それは、イッポまちがえると、「ボウドウ」

とまちがえられるかもしれない。そんなことをかんがえると、はたけをイジすることをわすれているときづく。ジンルイのハツメイだったはずだ。そんなことをわすれているようじゃしょうがない。

よんジュウサン

ひとのセイカツには、しごともあったホウがいいだろうし、シユミもあったホウがいいかもしれない。また、なにかのサギヨウは、しごとだとおもしろくない。もし、すべてのサギヨウが、しごとだったらどうだろう。たのしいはずのリヨコウも、たのしくないかもしれない。

わたしは、ガツキをみてさがすのがシユミだが、これがしごとだとすると、みたとしてみたいたくない。シユミといっても、ケイサンすれば、つかわれるカイスウはかぎられる。シユミだと、やらないこともセンタクシのひとつだが、しごとだと、やらないしごとはムダである。

そういうめでみると、あまりつかわないものはかおうとはおもわなくなる。わたしのおや

じも、おふくろもあまりムダなものではかかわなかったのだとおもう。

よんジュウよん

サイキン、テレビをみて、ふとおもった。ガメンにうつっているニホンジンのこどもは、めぐまれているなど。タブンガツコウにいつているのだろうが、シユミもやっている。わたしがそれくらいのネンレイのころにも、やはりシユミをやっていた。プールに行くとか、テレビゲームをするとかである。

そういうゆたかさがおわっていないすると、まあここサンジュウネンほどは、あまりケイザイなどがアツカしていないのだろう。よくはなっていないかもしれないが、わるくもなっていない。まあ、わたしは、それで、わかいセダイに、ゆたかさをひきわたせたのだとアンドした。「バブル」というのもあったが、またおきるとはカクシンしていない。

よんジュウゴ

エル（ウンドウ） イコール イーエックス（コウカン）とかいた（●サンジュウキュウ）。ニゲンもエルがカノウで、したがって、なにかをコウカンしてうごいているだろう。たべものやガスなどである。

これらは、カガクブツシツといえるだろうし、ばあいによっては、デンキシンゴウシヨリだろう。もし、そうであるなら、エルイコールイーエル（デンキ）である。それから、デンキをもつものはうごくとなる。シイディプレイヤーもうごいているし、テレビもヒョウジをかえる。

もし、ワクセイのカツドウをデンキでとらえれば、デンキがあるゆえにうごくともかんがえられる。つまり、ジュウリヨクはデンキというわけである。ジー（ジュウリヨク） イコールイーエルだ。また、ジーイコールエルでもある。これは、ジュウリヨクにひかれるというはなしだから、わかりやすいであろう。

よんジュウロク

ちいさいおもいものをもってから、おなじおもさのおおきなものをもつ。すると、おおき

なホウが、おなじおもさであるにもかかわらず、かるくかんじる。これは、タブン、シンリガクでいうサツカクであろう。ニンゲンはタイセキにあわせて、おもさをスイソクするチエイがそなわっているのだろう。

よんジュウなな

タイヨウには、ジュウリヨクがあるといわれる。わたしはそれをうずまきリヨクといった（●『ア』ヒャクロクジュウサン、『オ』ヒャクゴジュウロク）。そのかわりに、そとがわへむかってひかりをだす。ということは、ジー（ジュウリヨク）とエルアイ（ひかり）のコウカンといえそうだ。

しかし、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるわけではない。もえつきたあとのように、ひかりをださないこともあるだろう。だから、ジーがつよまれば、イーエル（デンキ）がつよまるとはいえそうだが（●よんジュウゴ）、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるとはいえなそうである。

よんジュウハチ

タイヨウは、ジュウリヨクをもち、かわりにひかりをだすとかいた(●よんジュウなな、『ス』ヒャコジュウゴ)。そのようにひかりはジュウリヨクからリダツするセイノウをもつ。それならば、ひかりをつかつて、ジュウリヨクからリダツするなにかもつくれるだろう。

よんジュウキユウ

ガツシユウコクで、あまりシヤカイシユギシヤがいるとはきかないが、タブン、シヤカイシユギシヤもうけいれるんだらう。イツポウ、ロシア(ソレン)やチュウゴクは、シヤカイシユギコクだったが、シホンシユギテキナイザイカツドウをはじめている。

たまに、ガツシユウコクとチュウゴクのニタイコクが、チキユウシヤカイをきめるなどというが、それがなぜなのか、あまりセツメイされない。わたしはこれをつぎのようにおもう。ガツシユウコクなどのしがわシヨコクは、シヤカイシユギをみとめるシホンシユギコクである。かれらと、(ロシア)チュウゴクなどのひがしがわシヨコク、シホンシユギをみと

めるシャカイシユギコクとのトウソウではないか。おなじようかもしれないが、ちがうともいえる。そういうことではないか。

ゴジユウ

いまのニホンやこれからを、コウレイシヨウシカといっている。としよりがふえて、こどもがへるといふことだ。ひとがおいるとどうなるか。からだがうごかせなくなったり、ぼけたりする。わたしのおやじもそうになった。ジテンシヤにのってころぶくらいだったのが、やがてねたきりになった。そうすると、ヨウもたせないから、おむつとなる。

たまに、わかひひとがナンニンで、としよりをひとりささえるといふはなしがでるが、まあそれだけロウリヨクがかかるといえる。そのブン、フツウのしごとができなくなるといつてもよい。そのように、おむつ力するニホンであるが、フツウのしごとだけでなく、ボウエイなどもタイヘンであろう。いまは、ガツシユウコクがたすけてくれるからいいが、ニホンジンがおかねをもっていないとなると、そうもいかない。

チヨキンがあつて、おかねをあまりつかわないというと、ケイキがわるくなるといつて、

だれかがおこりだしそうだが、チヨキンというのは、「ホケン」であろう。フツウのホケンは、だれかにおかねのウンヨウをまかせるが、チヨキンはジブンでウンヨウする。ウンヨウにかかわるコストもおさえられるから、フツウのホケンよりいいかもしれない。

そうしたジコホケンがあれば、なんとかなるだろう。ニホンジンがおむつかしたときに、ホケンなしではセイカツできないであろう。セイフは、ジコセキニンとはいわないが、やはりそういうメンがあるだろう。

ウインドウはすべてエレクトリック。シドクバン
エイゾウ

ニセンジュウキュウネンハチガツジュウよつカ
ニセンニジュウネンイチガツニジュウイチニチ

iii toga db006-2-s

エイチテイテイピーコロンスラツシユスラツシユアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム
テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラ カンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーパーアーをみつけた。』ニセンジュウキユウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニユウできます。